

ISSN 0910-3295

年 報 4

昭和 62 年度

1988. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 4

昭和 62 年度

1988. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが考古博物館と併設してオープンして以来、今年で6年を経過いたしましたが、両々相俟って運営を行ってきたと考えております。

本年度は、発掘調査15件、整理及び報告書刊行事業27件を行いましたが、報告書を刊行いたしました遺跡は、8遺跡7冊であります。発掘調査事業の中でも本年度は文化庁の補助を受け、生産遺跡分布調査に着手し、県内ではじめて須恵器の窯が境川村地内で発掘されたことは、大きな成果であると考えております。この事業は3カ年計画で、古代窯跡を中心に調査を進めております。また、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園建設事業に伴い稻荷塚古墳の調査を実施し、石室より銀象嵌を施した直刀の柄頭が発見されました。次に、八ヶ岳南麓の丘の公園地での調査は、今年で5年経過いたしまして、旧石器時代以外に縄文時代早期、弥生時代、古墳時代の遺跡も確認いたしました。一方、縄文時代前期の学史的に有名な遺跡である八代町と御坂町にまたがる花鳥山遺跡を笛吹川農業水利事業に先立って調査し、住居址から炭化したエゴマの種子が出土いたしました。縄文時代前期に栽培していた植物が、中部地方でも確認されたことになり、意義深い発見であると確信いたしております。同じ事業により調査いたしました八代町地内の下長崎遺跡で縄釉碗や袋状鉄斧などが出土いたしました。この遺跡の性格は今後論議を呼ぶものと考えております。これらの遺跡の詳細な報告は各調査報告書に譲り、本書では取りあえず調査の概要を中心に掲載いたしました。

一方、県内の市町村が実施した発掘調査件数は、今年度も36件の多きに達し見るべき成果が上げられております。例えば、増穂町教育委員会が(財)山梨文化財研究所の協力のもとに調査されました権現堂遺跡が、泥塔窯跡であることが明らかになったのは、全国的にも貴重な発見であると言えましょう。また、国指定史跡である一宮町の甲斐国分寺では範囲確認調査と塔址周辺の調査が行われておりますが、これまで不明確であった基壇の規模が明らかにされました。今後ともこのような貴重な調査研究がさらに進められることを願ってやみません

1988年3月25日

山梨県埋蔵文化財センター

所長 磯貝正義

目 次

62年度の事業概要	1
1. 発掘調査	
2. 整理事業	
3. 発掘調査報告書	
4. 鉄器保存処理	
5. 木器保存処理	
6. 収藏品の館外貸出	
7. 出版物の掲載許可	
8. 図書	
9. 遺跡調査発表会	
10. その他	
各遺跡の発掘調査概要	7
丘の公園第2遺跡	8
丘の公園第5遺跡	8
関山遺跡（県道部分）	9
関山遺跡（道路公団部分）	10
西川遺跡	11
生産遺跡分布調査	12
横堀遺跡	15
稻荷塚古墳	16
花鳥山遺跡	18
下長崎遺跡	21
宮の後遺跡	24
下原遺跡	24
両の木神社遺跡	25
遺跡調査発表会概要	26
昭和62年度県内埋蔵文化財発掘調査一覧表	27

62年度の事業概要

埋蔵文化財センターは本県の埋蔵文化財を保護し、活用するために、その発掘調査や保存措置に努めている。施設は考古博物館と併設され、職員の多くは兼務であるために、連携をとりながら多岐にわたる業務を処理している。

1. 発掘調査

発掘は県内の発掘調査一覧表で示したように、本年度は分布・試掘調査等も含めると15ヶ所、約30,000m²に及ぶ。

このうち5ヶ所は笛吹川農業水利事業の副幹線管水路埋設工事の事前に発掘したものである。これらは甲府盆地東・南部に連なる御坂山塊山麓丘陵にある花鳥山遺跡、その山麓に展開する扇状地上にある下長崎遺跡や両ノ木神社遺跡などである。ここからは縄文時代前期や平安時代の多くの住居址や炭化した木の実などが出土し、貴重な資料を得た。

県下全域を対象にした生産遺跡分布調査は、3ヶ年計画で、文化庁の補助金を得て、本年度から開始した。初年度は境川村地内の須恵器、瓦等を生産した窯跡があるといわれる場所5ヶ所を試掘した。ここからは本県で始めて須恵器の登窯3基などを検出し、甲斐古代史解明の糸口を提供した。

丘の公園建設事業第2期工事に伴って、2遺跡の発掘調査を行った。これは広大な八ヶ岳南麓にある高根町清里に県営スポーツ・レクリエーション施設の一つとしてゴルフ場を造成する地内にある遺跡で、丘の公園第2遺跡と丘の公園第5遺跡である。標高1,210mの第2遺跡から先土器時代の石器約900点（含剥片）などが出土し、八ヶ岳山麓に新しい資料を加えた。

八ヶ岳山麓に新しく建設する広域農道予定地では、この地域を含めて58年度から遺跡分布調査を行っている。発掘は61年度から始めて、本年度は西川遺跡を行った。ここからは平安時代の住居址や中世の土壙墓と考えられるものなどを検出し、北巨摩地方の歴史解明の一資料を得た。

甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園は東八代郡中道町に、約40ヘクタールの地を選定して昭和58年度から整備が始まっている。ここには国指定史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳をはじめとする8基の古墳や120基を越す方形周溝墓など遺跡が集中している。

稻荷塚古墳はこの中の1基で、石室や埴頂の確認調査である。出土品は直刀、馬具、銅鏡などと共に銀象嵌のある鉄製の直刀が発見され、注目をあびた。他にもほとんど破壊されている古墳1基も新しく発見された。

2. 整理作業

発掘調査を行った遺跡から出土した遺物は復元と実測を、記録した図面類は整理・トレイスを、撮影した写真は整理・焼付などを行う。

整理作業をした遺跡は本年度発掘した遺跡を引き続いて行ったものと、以前に発掘した遺跡

整理事業遺跡一覧表

遺跡名	発掘年度	事業名	遺跡名	発掘年度	事業名
花鳥山遺跡	62	笛吹川農業水利事業	関山遺跡	62	中央道上野原I.C.
下長崎遺跡	62	笛吹川農業水利事業	西川遺跡	62	八ヶ岳広域農道
両之木神社遺跡	62	笛吹川農業水利事業	稲荷塚古墳	62	曾根丘陵公園整備
下原遺跡	62	笛吹川農業水利事業	一の沢北遺跡	61	笛吹川農業水利事業
宮の後遺跡	62	笛吹川農業水利事業	山口遺跡	61	笛吹川農業水利事業
室屋遺跡	62	生産遺跡分布調査	天神遺跡	61	笛吹川農業水利事業
牛居沢遺跡	62	生産遺跡分布調査	一の沢遺跡	57	笛吹川農業水利事業
温泉遺跡	62	生産遺跡分布調査	金生遺跡(A区)	55	県営施設整備事業
子の神社遺跡	62	生産遺跡分布調査	南堀之内遺跡	53	県営住宅建設
下向遺跡	62	生産遺跡分布調査	大畠遺跡	53	国道137号線改良工事

で未整理のものがある。前者は来年度も引続いて行うものと終了したものがあり、後者は年次計画で整理しているもので、本年度分は金生遺跡(A区)、南堀之内遺跡、大畠遺跡である。内容は別表のとおりである。

3. 発掘調査報告書

報告書は本年度に発掘して引続いて整理を行い刊行したもの、昨年度整理したものを刊行したものや前述した年次計画で整理して刊行したものがある。内容は別表のとおりである。

発掘調査報告書

第33集	一の沢遺跡他発掘調査報告書
第34集	南堀之内遺跡 大畠遺跡
第35集	史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳保存整備報告書
第36集	関山遺跡 I
第37集	西川遺跡
第38集	稲荷塚古墳発掘調査報告書
第39集	金生遺跡発掘調査報告書

4. 鉄器保存処理

古墳や住居址などから出土した鉄製品は既に錆たり、破損したりしているものが多い。鉄器保存処理室ではこれらの錆が進行しないように、塩分を抜き、乾燥させて、樹脂を含浸させ、錆を除去し、復元出来るものは復元する。

本年度は稲荷塚古墳から出土した直刀、刀子、鉄鎌、鎧の小札、馬具、金環など約300点、

二之宮・姥塚遺跡から出土した刀子、鉄鏃、櫛、鎌など約200点と青木北遺跡から出土した刀等合計500点以上のものを保存処理した。なお、処理施設は県内市町村でも利用したものもある。

5. 木器保存処理

湿潤な地層から植物はそのまま保存状態で出土することがある。国指定史跡銚子塚古墳を保存整備するために（甲斐風土記の丘）、昭和60年度にその周濠を試掘した。その際に出土した木製品25点を東都文化財保存研究所に文化庁の補助金を受けて保存処理と樹種鑑定を委託した。なおこれらは県教育委員会に文化庁から譲渡された。

6. 収蔵品の館外貸出

土器や石器などの遺物を県内外の博物館等で行う特別展や記念事業に期限をきって貸出すものである。貸出件数は年々増加しており、本年度は別表のように、合計7件60点を貸出した。

収蔵資料貸出一覧表

No	日付	申請物件名	申請者名	利用目的
1	7. 3	一の沢遺跡出土土器	山梨文化財研究所	縄文土器研究のため
2	9. 2	銚子塚古墳平面図	塙中学校	学園祭展示用の古墳模型作成のため
3	9.22	一の沢遺跡出土土器	神奈川県立埋蔵文化財センター	「燃え盛る勝板式土器と縄文文化」展
4	9.30	天神遺跡出土硬玉製垂玉	富山県埋蔵文化財センター	「ひすい 一地中からのメッセージ」展
5	12.16	一の沢遺跡出土土器 北堀遺跡出土土器	石和町	歴史民俗資料館展示のため
6	3.24	一の沢遺跡出土土器 一の沢遺跡出土土偶 金生遺跡出土耳飾り 金生遺跡出土中空土偶	栃木県立博物館	「祈りの原像」展
7	3.25	宮の前遺跡出土土器 花鳥山遺跡出土土器	栃木県立博物館	「祈りの原像」展

7. 出版物の掲載許可（収蔵資料の掲載一覧表参照）

出版社や市町村から遺物や遺跡（遺構）の写真、図面などの出版物への掲載許可申請がある。これらも年々増加しており、本年は別表のように合計17件、数百点の申請を許可した。

8. 図書（考古博物館・埋蔵文化財センター図書分類表参照）

埋蔵文化財センター・考古博物館では約8000冊の蔵書と視聴覚ライブラリーを有する。蔵書類は主に全国各地の発掘調査報告書と考古学及び日本古代史に関する基本図書や解説書であるが、事典や県内市町村誌（史）などもある。

本年度は112冊を購入し、多数の発掘調査報告書等を全国各県教育委員会や博物館等から寄贈していただいた。これらは全て登録・分類し、希望により研究者や県民の利用に供している。

なお、分類表は別表のとおりである。

9. 遺跡調査発表会

埋蔵文化財センターと山梨県考古学協会の共催で2回開催した。詳細は後述のとおりであるが、各回50人を越す参加者があり盛会であった。

10. その他

本センターの重要な仕事としている市町村の指導、連絡調整や各種文化財関係団体などとの連携活動も適宜行っている。

県内の概況

発掘調査件数は別表のように60件で、昨年度より12件増加している。このうち開発に伴う調査は43件、遺跡の整備や保存を図るための調査や範囲を確認した調査等は16件である。

前者の発掘調査は農業関係が最も多く19件、道路建設や河川改修事業等が5件、その他ゴルフ場造成事業などで大規模発掘も行われている。

後者の発掘調査は瓦や須恵器の窯跡の調査が活発に行われ、風土記の丘整備のためや、治水施設である将棋頭、黒川金山など甲斐武田氏が残した遺跡の調査も行われ、新しい資料が発見されている。

発掘調査報告書は19遺跡分が刊行された。内訳は県埋蔵文化財センターが刊行したものは後述のとおり7遺跡で、他は各市町村教育委員会が次のとおり刊行した。三珠町「一条氏館跡遺跡」、八代町「馬見塚遺跡」、西桂町「休場遺跡」、春日居町「寺本庵寺」、韮崎市「前田遺跡」、武川村「宮間田遺跡」、白州町「坂下遺跡」、小瀬沢町「竹原遺跡」、明野村「北原遺跡」、長坂町「別当十三塚・深草遺跡」、竜王町「竜王町の遺跡」（詳細分布調査）、大泉村「方城第一遺跡」である。

埋蔵文化財の発掘が担当できる市町村の職員は、新しく62年度には7市町村が設置し、次のとおり合計19人となった。甲府市（2人）、都留市、大月市、韮崎市、富士吉田市、塩山市（62年度、非常勤）、勝沼町、一宮町、櫛形町、明野村（62年度）、小瀬沢町（62年度）、白州町（62年度、非常勤）、上野原町（62年度、非常勤）、八代町（62年度、非常勤）、大泉村（62年度、非常勤）、長坂町（62年度、非常勤）、須玉町、高根町である。

また県内の考古、歴史、民俗関係の展示施設は40館あまりあり、公立が32館、私立が5館で、登録博物館は2館である。

文化財保護運動は山梨県考古学協会や山梨郷土研究会等任意団体を中心に活発に行われていて、その活動も盛んである。整備された甲斐風土記の丘には昨年に倍して県内外から多数の人々が訪れている。

本年はNHK大河ドラマ「武田信玄」の放映の影響もあって、中世館跡が脚光をあび、また国指定史跡の武田氏館跡内に無許可で看板を立てた問題が惹起し報道され、史跡保存の大切さが認識され、また整備・活用への対策が急がれる問題ともなった。

収蔵資料の掲載一覧表

No	日付	申請物件名	申請者名	利 用 目 的
1	4.23	积迦堂遺跡出土土偶 金生遺跡出土土偶	旺文社	『原像日本』に掲載
2	6.11	积迦堂遺跡出土土偶 金生遺跡出土中空土偶	旺文社	『原像日本』に掲載
3	6.11	西田遺跡出土繩文土器 丸山塚古墳石室壁画	小川忠博	経歴書に掲載
4	7.3	积迦堂遺跡出土土偶	平凡社	『日本 その心とかたち』1に掲載
5	8.6	积迦堂遺跡出土土偶 金生遺跡配石遺構 积迦堂遺跡出土土器	小学館	『大系日本の歴史』1に掲載
6	9.30	上野原遺跡出土土器	平凡社	『日本 その心とかたち』1に掲載
7	9.30	一の沢遺跡出土土器 安道寺遺跡出土土器 鏡子塚古墳壺形埴輪 积迦堂遺跡全景 "出土土器 金生遺跡中空土偶 天神遺跡有孔土器 积迦堂遺跡豪棺墓 上ノ平遺跡方形周溝墓	講談社	『古代史復元』3および6に掲載
8	10.21	积迦堂遺跡出土土偶	国際美容協会	きものショウのパネルに使用
9	10.29	积迦堂遺跡出土土偶 "土鈴 "土笛 "石器類	講談社	『古代史復元』3に掲載
10	11.15	二之宮遺跡出土土器 积迦堂遺跡出土土偶 "土鈴 "土笛 全景	講談社	『古代史復元』3に掲載
11	11.19	殿林遺跡出土土器	平凡社	改訂『世界大百科』に掲載
12	12.18	积迦堂遺跡出土土偶	鳥取県埋蔵文化財センター	『旧石器・縄文時代の鳥取県』に掲載
13	12.24	境川村内出土土器	境川小学校	『わたしたちの境川』に掲載
14	3.15	金生遺跡出土土器	小学校	『縄文土器大観』4に掲載
15	3.15	金生遺跡出土石棒	雄山閣	『季刊考古学』23に掲載
16	3.20	博物館上空航空写真 鏡子塚古墳石室写真 鏡子塚古墳壺形埴輪	山梨日日新聞社	『ザやまなし』4月号に掲載
17	3.24	青木遺跡写真 "遺構図面 "遺物実測図 "遺物写真 梅の木遺跡写真 "遺構図面 "遺物実測図 "遺物写真	高根町教育委員会	『高根町誌』の編纂に使用

考古博物館・埋蔵文化財センター図書分類表

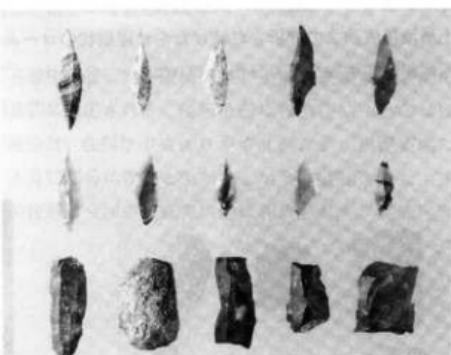
大 分 類		小 分 類			
記号	項 目	記号	項 目		
	A 調査報告書				
1	B 学術書(時代)	0	概 説		
2		1	旧 石 路		
3		2	縄 文		
4		3	弥 生		
5		4	古 墳		
6		5	古 代		
7		6	中 世		
8		7	近 世		
9		8	近 代		
10		9	外 国		
11	C 學術書 (分野別)	0	総 記		
12		1	哲 学	神道・仏教・思想	散碑 祭祀
13		2	遺 物・遺 跡		古代遺跡の研究・木製遺物
14		3	社 会 科 学	経済・法律・風俗・習慣・統計	集落・植物食・服飾
15		4	自 然	動物・植物・地学・天文	家畜・人類・化石
16		5	技 術	建築・製造工業・兵器	城郭・道具
17		6	産 業	農業・林業・交通・狩猟	農耕社会
18		7	芸 術	陶磁・彫刻・絵画	玉作り・拓本
19		8	文 学	古文書	金石文・墓誌・木簡
20		9	研 究 報 告		研究会・協議会等研究報告
21	D 全 集				全集・古籍記念論文集
22	E 逐次刊行物	1	年 報・紀 要	年報・紀要(館報、だよりを除く)	調査一覧・調査抄報
23		2	雑 誌		
24	F 市町村誌(史)			県史を含む、50年のあゆみ、調査のあゆみ	
25	G 參考図書	1	辞 典		
26		2	記 錄	国史大系、甲斐国志	
27		3	地 図		
28	H 教 科 書				
29	I 文 化 財	1	県 内	考古を除く文化財の調査・研究・解説	(文化財に関するパンフレットを除く)
30		2			
31	J 博 物 館	1	一 般	要覽・博物館学・美術館・風土記の丘	
32		2	展 示	展示解説・図録	
33		3	目 錄	所蔵目録	
34	K 行 政 資 料				
35	L 児 童 図 書				

各遺跡の発掘調査概要

丘の公園第2遺跡

所在地 北巨摩郡高根町清里
事業名 「丘の公園」建設事業
調査期間 昭和62年9月2日～12月9日
発掘担当者 保坂康夫 中山誠二
面積 800 m²

先年度に範囲確認調査を行った約2,000 m²の遺跡である。企業局と調整し、ゴルフコースが避けられない、遺跡東側部分を本調査した。現状は、植林のカラマツを中心とした雜木林である。東西を開拓された幅200m、比高8mの細長い台地上にある。遺跡のある地域は、他所と違いほとんど傾斜がない。土層は上層から約50cmの黒色土層、30cm前後の漸移層、約50cmのソフトローム層、ハードローム層である。ハードローム層は、台地上で数mの堆積が見られ、A.T.、P.m-I・IVが挟在する。先土器時代、武藏野台地第II b期の石器群のみ見られた。砾群約20基、配石数基。遺物は、ナイフ形石器約60点の他、彫器、搔器、削器、石錐、楔形石器など少數ずつ見られた。剝片を含めた石器総数は約900点、礫は約600点である。生活面は、ソフトローム層上部と思われる。縄文時代の遺構は、早期と思われる陥し穴3基である。遺物は、石錐1点のみであった。



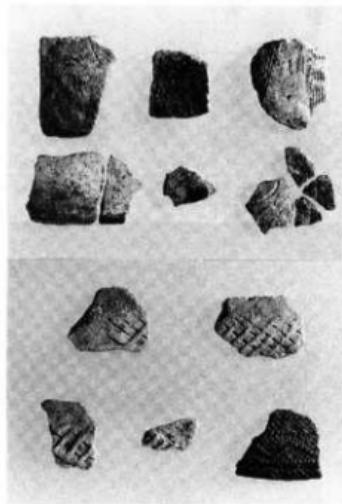
丘の公園第5遺跡

所在 地 北巨摩郡高根町清里
事 業 名 「丘の公園」建設事業
調査 期 間 昭和62年5月14日～9月1日
発掘担当者 保坂康夫 末木 健
面 積 25,000 m²

昭和59年度の分布調査で遺物・遺構を確認した地点について、範囲確認調査を行った。試掘坑は5m間隔で979カ所設定し、74カ所で遺物・遺構を確認した。遺物は、縄文時代早・前・後期、弥生時代後期、中世の土器、石器など石器がある。遺構は、縄文時代早期らしい陥し穴11基、中世らしい陥し穴11基、炭焼き穴2基である。遺跡は、調査地域の中央を中心に、南北250m、東西50mの範囲である。黒色土層堆積直前まで開析され続けたやせ尾根状のローム層台地に立地し、高所に陥し穴が多く、西側斜面に遺物が多く分布していた。



丘の公園第5遺跡位置図 (1/25,000)



出土土器



中世と思われる陥し穴

関山遺跡（県道部分）

所 在 地 山梨県北都留郡上野原町関山地内

事 業 名 中央自動車道上野原インターチェンジ県道部分建設事業

調査期間 昭和62年3月9日～5月7日

発掘担当者 田代 孝 長沢宏昌 中山誠二

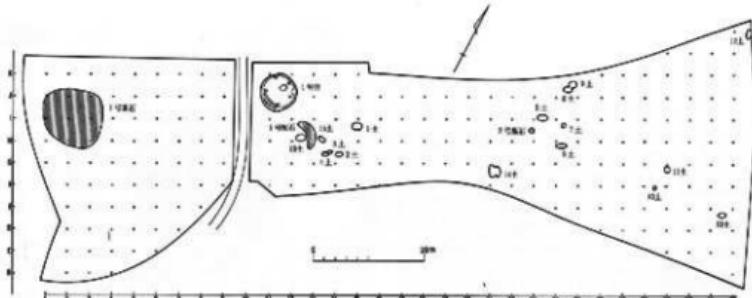
面 積 4,000 m²



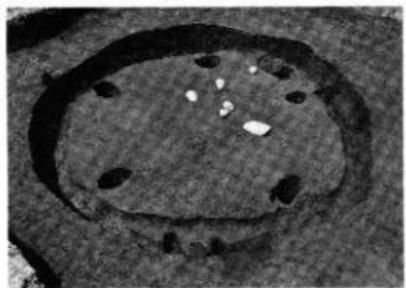
関山遺跡位置図 (1/25,000)

関山遺跡は山梨県の最東端に位置し、神奈川県との県境付近に所在する。遺跡は中山湖に発した桂川（相模川）によって形成された河岸段丘面に載り、標高250m前後を測る。遺跡南側は現在の桂川のある低位段丘を望む断崖となっており、その比高差は約80mにおよぶ。また、遺跡西方には鶴川が南流し桂川と合流している。これらの中位段丘上には縄文時代以降の遺跡が数多く確認されており、本遺跡もその一つとして周知されていたものである。

調査の結果、縄文時代の住居址1軒、配石造構1基、集石造構2基、土壙16基が検出されている。住居址は、縄文時代中期後葉の曾利II式に比定される。住居址規模は直径約7mのほぼ円形を呈し、壁際に周溝をめぐらす。屋内施設は、住居址中央よりやや北側に炉、奥壁東側に貯蔵穴と考えられる施設が検出された他、入り口部分に埋甕と小ビットが2本確認された。主柱穴は5本が規則的に配置される。同時期の住居は今回の調査では他に認められず、調査区北側に集落の広がりを予測される。



関山遺跡（県道）遺構配置図



1号住居址



住居址内埋甕

関山遺跡（道路公団部分）

所 在 地 山梨県北都留郡上野原町関山地内

事 業 名 中央自動車道上野原インター・チェンジ建設事業

調査期間 第1期調査 昭和62年5月8日～6月22日

第2期調査 昭和62年8月3日～10月31日

発掘担当者 長沢宏昌 中山誠二

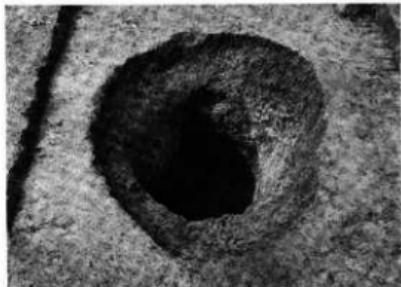
面 積 13,000 m²

調査区は、同遺跡県道部分調査区の東側に連続する地域である。同一段丘面の上にのるが、県道調査区の東端から本調査区西側にかけて2mほどの段差が存在し高くなっている。

調査の結果、縄文時代と考えられる土壙8基、昭和20年代に掘られた貯蔵穴が検出された以外に遺構は存在しない。縄文の遺物包含層から土器片、石鏸、打製石斧などが散在的に出土している。



調査区全景



塗し穴状遺構

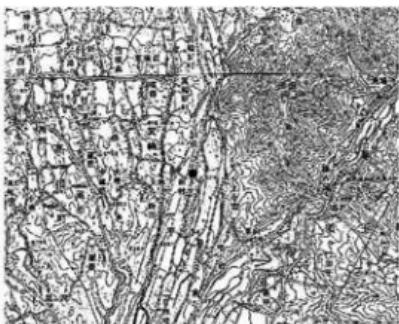
西川遺跡

所在 地 山梨県北巨摩郡須玉町穴平字西川
事 業 名 八ヶ岳広域農道建設事業
調査期間 昭和62年5月11日～7月4日
発掘担当者 八卷与志夫
調査面積 2,800m²

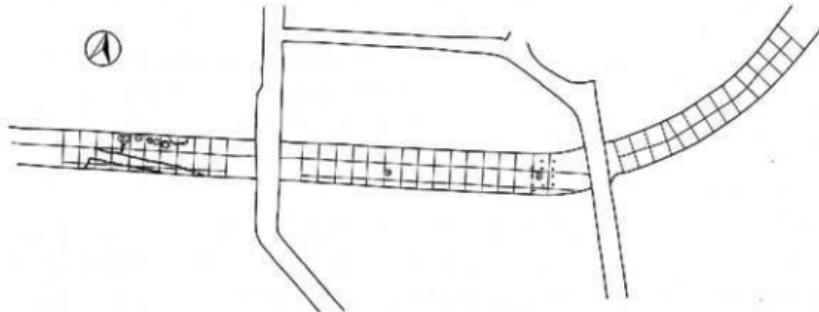
八ヶ岳東麓を流れる須玉川の右岸の河岸段丘に立地する平安時代と中世から近世初頭の遺跡である。本遺跡は、鎌倉時代に創建された日蓮宗の遠照寺の境内地であった可能性があり、また須玉町教育委員会では圓場整備事業に伴ってこの遺跡の北側を昭和60年度から発掘調査を実施して来ている。本年度は遠照寺より南側を通過する幅8～10m、長さ200mを調査した。

検出された遺構は、平安時代の住居址1軒及び中世末から近世初頭の掘立柱建物址が2棟、また性格不明な敷石遺構も確認されている。土壙は10基検出されたが、墓として確認できるものは1基である。出土遺物は、内耳土器と土師質土器及び古銭、灰釉、鉄釉の茶入、五輪塔、方篋印塔などである。これらの石塔には妙法蓮華經と墨書されているものが多い。中でも方篋印塔の塔身の四面には妙法・蓮・華・經と書かれている。五輪塔の空風輪にも妙法の墨書が認められる。形態からは、室町時代後期のものと考えができるが、墨書を施す手法は江戸時代とも言われている。また、出土した古銭は34枚であるが、内訳は寛永通宝が2枚、北宋銭2枚、明銭2枚、唐銭2枚である。

この遺跡の性格は今回の調査では明確に判断することは困難であるが、日蓮宗の遠照寺の塔頭のひとつであることも考えられる。



西川遺跡位置図 (1/50,000)



遺構配図

生産遺跡分布調査

遺 跡 名 室屋遺跡・牛居沢遺跡・温湯遺跡・
子の神神社遺跡・下向遺跡

所 在 地

室屋遺跡 東八代郡境川村藤岱字室屋
牛居沢遺跡 東八代郡境川村藤岱字牛居沢
温湯遺跡 東八代郡境川村大窪字温湯
子の神神社遺跡 東八代郡境川村大窪字子の神神社
下向遺跡 東八代郡境川村三門字下向
事 業 名 生産遺跡詳細分布調査
調査期間 昭和62年11月5日～12月11日
発掘担当者 末木 健
面 積 216 m²



遺跡位置図 (1/25,000)

- ①室屋遺跡 ②牛居沢遺跡 ③温湯遺跡
④子の神神社遺跡 ⑤下向遺跡

この調査は文化庁からの補助金を受けて、県内内の窯跡について3ヶ年計画で実施するもので、本年は第1年次調査を実施した。調査ヶ所は上記5ヶ所で、各地点の調査概要は次のとおりである。

① 室屋遺跡

かつて耕作中に布目瓦（平瓦・丸瓦・軒平瓦）と焼土が出土したと伝えられることから、瓦焼成用の平窯が存在する可能性があったため、調査を実施した。瓦は湾曲した内面には麻布の圧痕があり、凸面には禾本科植物の茎で編んだムシロの圧痕が付けられている。軒平瓦は均整忍冬唐草文であり、同范瓦が甲斐国分寺から出土している。この瓦の年代は、麻布の織り間隔及び同范瓦の存在から、奈良時代以降の瓦と考えられる。遺跡のある藤岱地区には鎌倉時代の五輪塔があり、村指定となっているので、近辺に古代末～中世初期創建の寺院が存在する可能性がある。

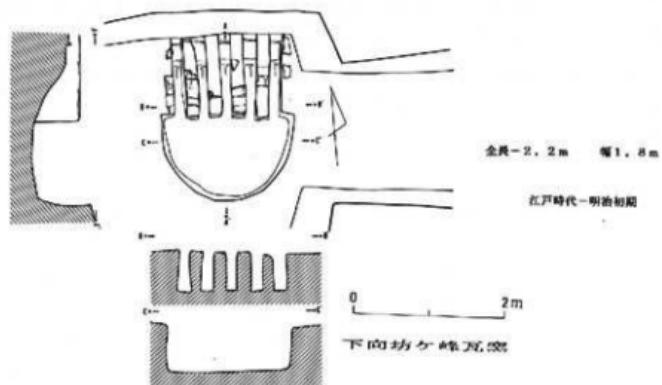
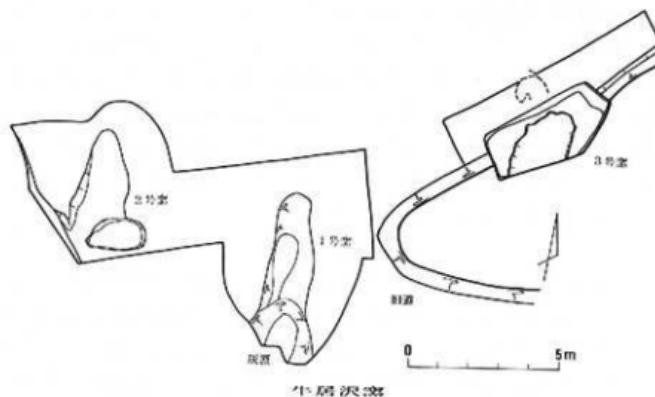
調査は旧出土地の畑の中に、4本のトレンチを設定して調査したが、窯跡は発見出来なかった。1号トレンチから平安時代住居の一部と、土師器壺が重なって出土した貯蔵穴を検出した。出土遺物の全体中には瓦破片も若干含まれており、ここから瓦が出土することは間違いないが、瓦生産にかかる遺跡であるかどうかについては、今回の調査では明らかにされなかった。

② 牛居沢遺跡

藤岱集落の西側、芋沢川の右岸斜面の肩部分で、広域農道の金比羅橋のたもとの、かつて徒歩で通行した道の一部とその付近にあると言わされた。『境川村誌』にも窯跡が存在すると記述されているが、調査前の現状ではその位置や規模は全く把握できなかった。そこで窯跡推定地にトレンチを等高線に沿って設定した。長さ9m、幅3mにトレンチを設定し、除草と表土除

去を行ったところ、旧道の路面部から焼土が検出され、更に西側でも焼土と須恵器、壁体が検出された。旧道部を1号窯、西側の窯を2号窯とした。なお、新たに1号窯の東側で1基発見され、これを3号窯と命名した。いずれも無段の登り窯で、規模は次のとおりである。

(1号窯) 全長5.5m、幅1.2mで、このうち灰原が2m程づく。灰原からは須恵器及び木炭、壁体等が出土している。窯底の傾斜は15°である。なお焼成部窯底から受け部のある須恵器破片が出土し、窯の年代を決めるのに重要な資料となった。 (2号窯) 全長3m、幅1.4mで、窯の上部のみが残存し、下部は後世の擾乱によって破壊されていた。壁体の一部及び窯底は赤色に焼けており、相当堅くなっている。窯底には難が階段状に2~3段並べられ、その付近か



生産遺跡（牛居沢・下向坊ヶ峰窯址）

ら赤色の須恵器壺破片が出土している。窯底の傾斜は30°である。（3号窯）調査した全長は2m、幅1.3mで、下部は未調査である。窯底の傾斜は28°である。内部より須恵器壺、蓋、壺破片が出土している。

③ 子の神神社遺跡

神社周辺より須恵器が出土することから窯跡の存在が想定されていた。そこで神社参道に沿って10m×1.5mの1号トレンチを設定し、神社本殿裏に1.5m×4mの2号トレンチを設定した。1号トレンチからは縄文時代～古墳時代の土器片が出土しているが、窯跡としての構造は検出できなかった。

④ 温湯遺跡

かつて耕作中に土師器、灰釉陶器、布目瓦が出土したことから、瓦窯の可能性を求めて調査した。桑・桃の植えられている畑に、等高線と平行して3本のトレンチを設定した。1号トレンチは住居址床面が検出され、平安時代土師器、灰釉陶器が出土した。2号トレンチは若干の平安時代土師器と須恵器、灰釉陶器破片が出土し、住居床面の一部がある。3号トレンチは土師器・須恵器、灰釉陶器に混じって、完形の丸瓦が出土した。丸瓦は玉縁式の丸瓦で、凹面には麻布の圧痕があり、凸面には縦方向に縄文の印目が見られる。本遺跡も窯址というより、寺院跡周辺の集落址として見られよう。

⑤ 下向窯跡

三柄共同墓地の南斜面に立地する。昭和40年代に墓を掘ったとき、多量の焼土と須恵器が出土したと伝えられ、遺物は村の教育委員会に保管されている。この遺物を見ると、窯の中で溶けて相互に付着した壺の破片があることから、窯が存在したことは確信できる。かつて墓地を掘った清水新吾氏の話によれば、焼土は蒲鉾状を呈していたという。発掘調査は共同墓地の旧発見地東側に沿って、長さ15m×幅2mの1号トレンチを設定したが、構造は検出されなかった。旧発見地の墓地外側に1m×4mの2号トレンチを設定したが、表土から須恵器・壁体の一部が出土したほか遺構らしいものは検出されなかった。第2地点は坊ヶ峰の峠先端で、幅2m×長さ10mのトレンチ中央から近世瓦窯跡が発見された。窯全長は2.2m、幅1.8mで、ロストルが明瞭に残っている。炊口の残存高は60cm、ロストル高さ60cm、幅16cmである。内部から黒色の瓦が多量に出土している。

横堀遺跡

所在地 東八代郡御坂町上黒駒字横堀

1115-1他

事業名 国道137号バイパス建設事業

調査期間 昭和62年10月1日～12月25日

発掘担当者 田代 孝

面積 1,100 m²

横堀遺跡は金川扇状地の扇頂付近にあり、金川左岸の段丘崖上に位置する。標高は約46

5mである。調査地区は東西20m、南北200m

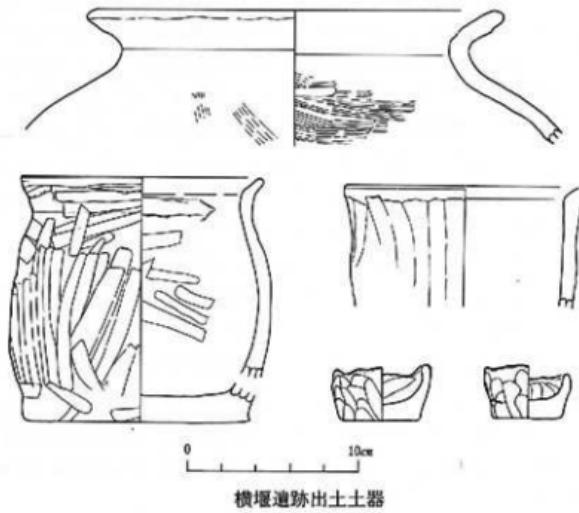
であったが、試掘の結果、北側において縄文前期の遺構が確認され、南側では土師器の包含層を確認した。今回の調査は南側の土師器出土地区である。

住居などの遺構は検出されなかったが、土器捨場と考えられる部分を検出することができた。出土土器は小形土器、甕形土器、置きカマドなどである。大部分が小破片であり、しかも壊形土器などは含まれていないのが特徴である。これらの土器の時期は8世紀代と考えられるものである。

遺跡は古代官道が付近を通過したと推定される地域であり、しかも水市駅などの存在をさぐる上で8世紀代の土師器を検出できたことは意義あるものといえよう。



横堀遺跡位置図 (1/25,000)



横堀遺跡出土土器

稻荷塚古墳

所在 地 東八代郡中道町下向山字東山
事 業 名 山梨県甲斐風土記の丘・曾根丘
陵公園整備事業に伴う事前調査
調査期間 昭和62年7月13日～9月14日
発掘担当者 末木 健
面 積 550 m²



古墳は2基発見された。当初の調査対象を1号墳、新たに発見された古墳を2号墳としめた。曾根丘陵の東山最高地点より、僅かに北側に下った、標高333mの緩斜面に位置し、地目は山林である。1号墳頂上には稻荷神社石祠が1基祀られている。

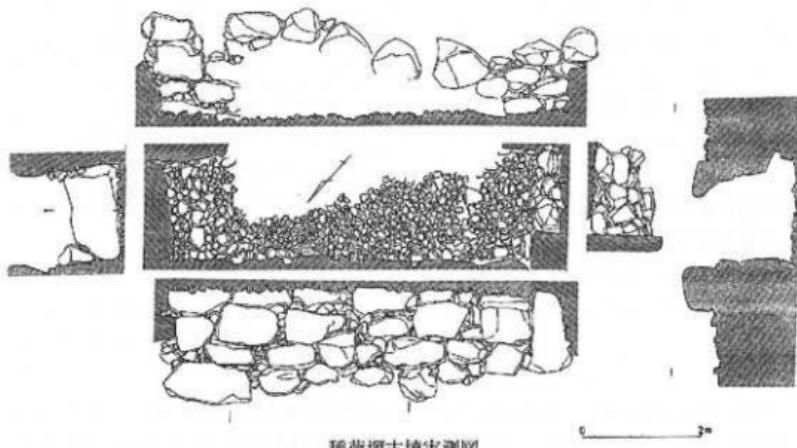
1号墳は円墳で、直径15～18mであるが、南側は畑との境界に掘られた根切り溝で擾乱を受けて、規模は明らかではない。北側からの墳丘の高さは3.5m、東側からは0.5mである。調査前には墳頂に石室の一部が露出していたが、天井石と考えられる石材はなかった。また、石室入口部は南西の溝断面に観察できた。

調査は石室上面を確認することから始め、石室内部の掘り下げと、墳丘表土剥ぎ作業を平行させた。墳丘掘には人頭大の礫が雜然と帶状に巡らされている。石室の東壁は内面に倒れ込んでいたので、上部の側壁を重機で除去した。

石室は西側壁に袖のある、片袖型横穴式石室で、全長8m、玄室長6m、奥壁幅1.68m、玄室内側幅1.84m、羨道幅1.34m、床面から側壁の最高部分まで1.9mである。床面には拳大の礫が、全面に敷かれている。石室内出土遺物は土師器・須恵器・直刀・刀子・鉄鎌・鎧の小札・馬具・金環・玉・水晶製切子玉・銅鏡などがあり、石室入り口前庭部より須恵器・土師器などが出土している。なお、直刀の鍔と円筒柄頭には亀甲鱗鳳凰文などの銀象嵌が発見された。

2号墳は殆ど削平され、かろうじて石室裏込め石が若干見られた。まとまった遺物はない。

1号墳の年代であるが、須恵器壺・蓋・平瓶・雞の編年位置では、東山50号窯か、それ以前(斎藤孝正 1983 『愛知県古窯跡群分布調査報告書(Ⅲ)一付・猿投窯の編年について』 愛知県教育委員会)に位置づけられ、田辺昭三氏の編年(田辺 1981 『須恵器大成』)では壺蓋が古くTK43～TK209に、壺・提瓶などはMT85、平瓶はTK217以降、雞はMT21あたりに比定することができる。中村浩氏の陶邑窯址群の編年(中村 1981 『和泉陶邑古窯の研究』)では、II-3～5に位置付けられる。また、銅鏡は毛利光俊彦氏の分類と編年(毛利光 「古墳出土銅鏡の系譜」『考古学雑誌』64-1)では、無台鏡A類の内、I類とII類の中間的形態を有し、群馬県白山古墳や千葉県関向古墳出土例と類似する。東京国立文化財研究所の材質分析では、朝鮮より搬入された可能性が高いという点などから、6世紀第4四半期～7世紀初頭の築造と埋葬が考えられる。



種荷塚古墳火測図



石室



遺物出土状況

花鳥山遺跡

所在地 東八代郡八代町竹居字花鳥505

2番地先道路他

事業名 笛吹川農業水利事業

調査期間 昭和62年10月12日～12月26日

発掘担当者 長沢 宏昌

調査面積 約810 m²

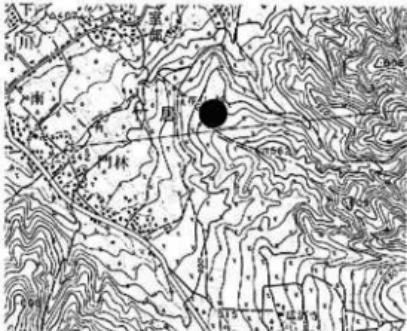
花鳥山は御坂山塊の西北麓に位置する丘陵で、最頂部近くに標高562.0mの三角点がおかれており。遺跡は北西方向に張り出した台地上に展開し、甲府盆地が一望できる。この地には、日本武尊の伝説で有名な「花鳥の一本杉」があり、また、そのすぐ近くには大永三年の合戦のおり、戦死者の首を埋めたという「首塚」が現存しており、かつては耳塚・鼻塚もあったという。

花鳥山の頂部は標高564.9mを測るが、ここから北西方向に向かって標高530mぐらいまでかなり急傾斜で下り、その当たりからやや傾斜が緩くなる。その傾斜は一本杉まで続いている。そこからまた急傾斜となり盆地へと下ることになる。遺跡は中間の緩斜面に展開している。

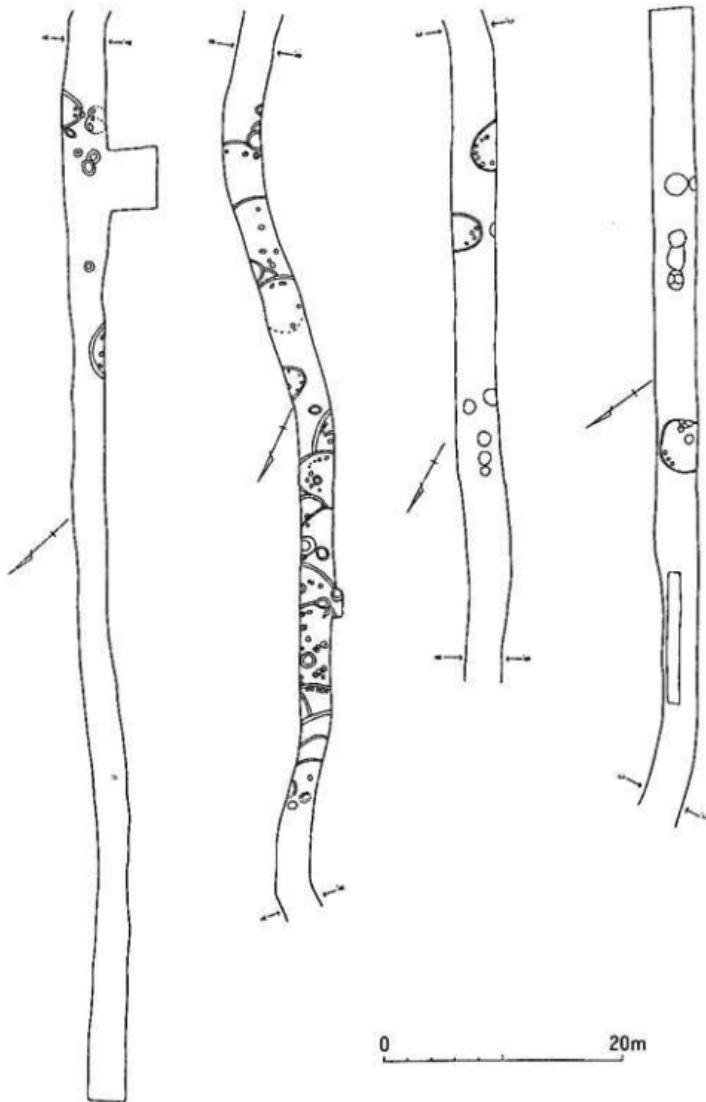
花鳥山遺跡は、現在県内でも最も有名な遺跡のひとつであるが、調査の歴史は古く大正年間にさかのぼることであり、昭和23年には山本寿々雄氏による調査があり、出土土器の報告も行われている。その後も松田保彦氏、野沢昌康氏などの調査があり、昭和29年4月および昭和30年3月には国学院大学の調査によって三軒の堅穴住居跡が発掘されている。この調査の正式な報告書はまだ出されていないが、概要は樋口清之博士によって『八代町誌』にまとめられている。本県が諸磯式土器の分布図にはいることは既に明らかにされていたが、このころ本県の諸磯式土器については花鳥山式と呼ばれていたようであり、花鳥山式の標識遺跡として全国的に有名な遺跡となっていた。

今回の調査は、それ以来約30年ぶりの調査となる。調査は一本杉から花鳥山頂部に上る農道を幅約3m、長さ約270mにわたって行ったもので、遺跡内に傾斜に沿ってトレントを入れたような状態である。農道を作る際の擾乱があちこちに見られたが、遺構の確認面までは深いところでは1.5m程もあり保存状態は比較的良好であった。住居跡23軒、土壙34基の遺構が確認されたが、遺構の多くは60m程の間に重複・集中していた。そして、確認された遺構の総てが前期末の諸磯式期に位置付けられるものである。土器片に該期以外のものも含まれるもの、その量はごく僅かである。過去の調査からも、本遺跡は縄文前期の大遺跡であるとされていたが、今回の調査でそれが裏付けられたとともに、諸磯期の単純遺跡である可能性が強くなった。

遺物は、遺構上面に最大1mに及ぶ包含層があったこともあって発掘面積の割に多く、整理箱約140箱ほど出土している。深鉢・浅鉢・有孔鉢付土器などの土器や打製石斧・石匙・石鏟・石



遺跡位置図 (1/25,000)



花鳥山遺跡全体図

皿などの石器は勿論、滑石製块状耳飾やボタン状貝製品などの装身具類、クリ・クルミ・炭化種子などの植物質遺物や骨片などの食生活の一端を示す遺物も出土している。なかでも石皿は多く20点を超える出土があり、耳様の突出部が作り出された前期としては類例を見ない種類も含まれている。また、住居跡の床面部分から、当時食用としていたと思われる植物の種子（エゴマ）が炭化塊となって出土しており、クリ、クルミなどを含め、当時の食生活を探るための重要な資料となろう。



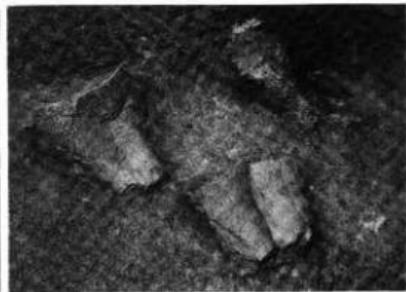
作業風景



住居址検出状況



遺物出土状況



遺物出土状況

下長崎遺跡

所在地 東八代郡八代町永井小字下長崎

1286番地他

事業名 笛吹川農業水利事業

調査期間 昭和62年10月12日～62年12月23日

発掘担当者 森 和敏

面積 約420 m² (3m×140m)



遺跡位置図 (1/25,000)

1 下長崎、2 宮の後、3 下原

甲府盆地東部の御坂山塊山麓に展開する浅川扇状地の扇端上部にあり、南区長崎集落の南西に接する果樹園中に広がる遺跡である。遺物はその分布を調査したところ、東西数百m、南北1,000mにも及ぶ広い範囲に散布しており、古墳時代から平安時代の土師器がそのほとんどで、発掘地は分布域の西端に位置する。発掘地付近から北へ約130m、東西150mくらいは特に土師器が濃く散布しているので、この関連遺跡と考えて大過ないであろう。

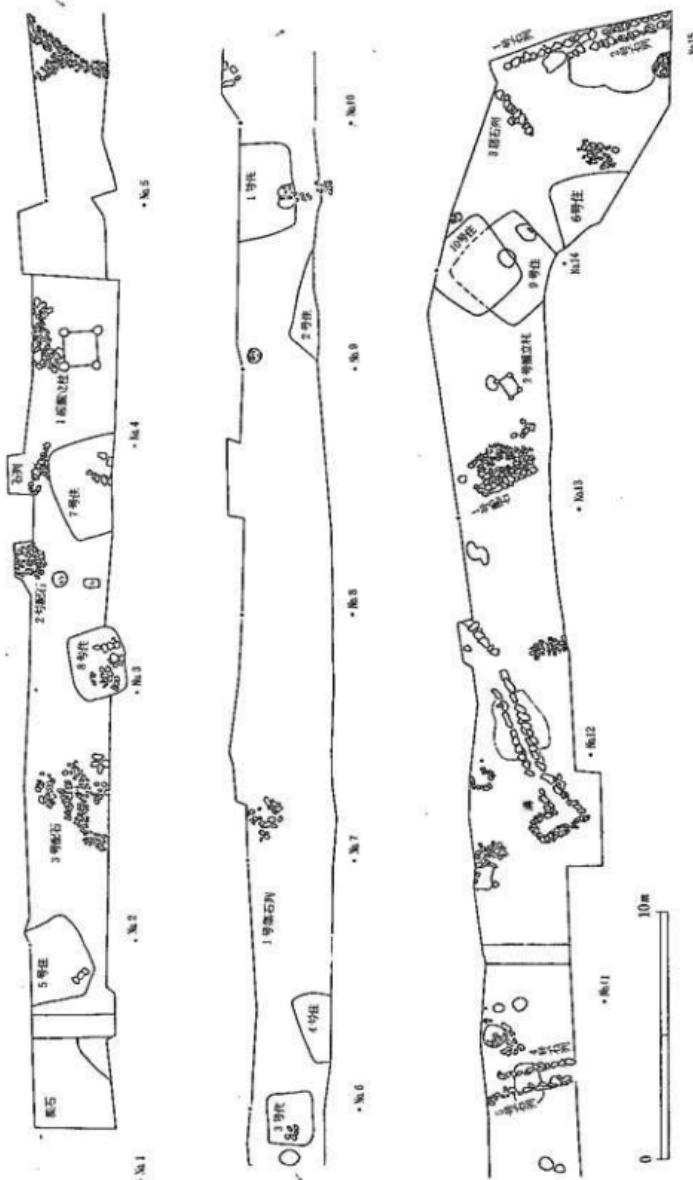
ここは八代莊と長江莊（八代莊の加納莊となるといわれる）との境界あたりになると思われ、また甲府盆地に広がる条里型地割の道が乱れながら、その形態がなくなる地域でもある。

遺構、遺物は古墳時代後期と平安時代後期とがあり、前者は遺構は少なく、地表より100cm～130cmの深い層から、後者は多数の遺構が70cm～110cmくらいの層から全面的に検出された。

古墳時代の主な遺構は竪穴住居址2軒（3・6号）、掘立柱建物址2棟（1・2号）と配石遺構1基（1号）で、3号住居址は東側にカマドがあり、掘立柱建物址は2棟とも一柱間である。遺物は3号住居址から完形の甕などが出土した。

平安時代の主な遺構は竪穴住居址7軒（1・2・4・5・8・9・10号）、石組の溝1本（1号）、石垣3基（1・2・3号）、石列2基（4・5号）、集石列1基（2号）や土壙、配石、鐵冶遺構、カマド址などが検出された。住居址は東部地域に多く、比較的小形で、カマドは北側に設けられている。石組の溝は上部の一部が破壊されたと思われるが、下部は比較的よく残存していた。石垣などの石組遺構は破壊されて、石が付近に散乱していたり、一部分だけしか残っていなかったものが多く、また石がまとめて捨てられたように累積したところもあり、故意に破壊された形跡がうかがわれる。そのためや発掘範囲が狭かったので、性格不明の遺構もある。

遺物は10世紀から12世紀に比定できるものが出土した。土師器と土師質土器は、時期はほぼ連続的に出土した。土師質土器は器肉の厚い环がその多くを占め、古手の器高が低いものから、新しい部類の器高が高いもの（図No.3）までを含んでいる。須恵器もある。綠釉陶器は5個体以上あり、胎土が軟質で白くて釉が斑の环と、やや黒色の硬質で釉が濃緑色の环（図No.1）がある。この他に灰釉陶器、鉄製品や石臼なども出土した。



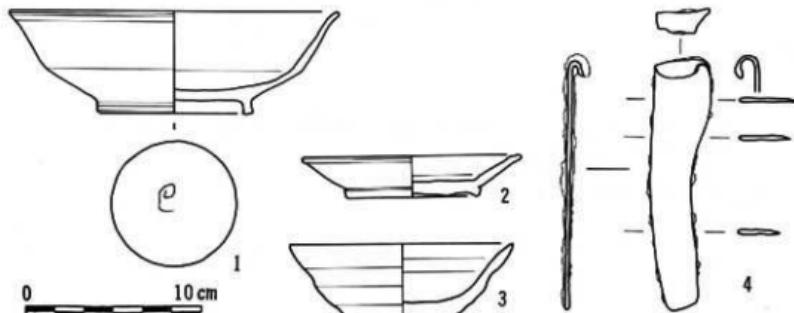
下長崎遺跡全体図

このように遺構、遺物とも特殊なものが多
く検出されたので、単なる集落遺跡ではなく、
荘園の中心的な遺構か土豪の屋敷跡などかも
しれない。

浅川扇状地は土地が肥沃で、非常に農業生
産力が高く古墳時代から開発が進んでいたも
のと考えられる。この地域には前期古墳が約
6基、中・後期古墳は60基くらいあり、遺物
の散布地も多く、集落址の発掘も行われてい
る。条里型土地割はこの遺跡から笛吹川の
沖積地まで、さらに浅川扇状地の南に広がる境川扇状地にまで広がり、その面積は数ヘクタ
ルに及ぶ。この一部が長江郷と考えられ、この北隣接して八代郷があり、これらは長江荘と



1号溝



下長崎遺跡出土遺物

強力な八代荘となる。この遺跡の遺構は条里型土地割の道の下層から検出したので、この土地
割がなされたのは12世紀以後と考えられ、したがって、荘園によって耕地化されたのもこの時
期直後であると考えられる。

以上のようにこの遺跡の位置や状況、性格や廃絶時期などを考慮すると、平安時代末期1162
年（応保2年）に起った熊野神社と国府との土地所有をめぐる争い、つまり長寛勘文の事件に
この遺跡は関係がある可能性がある。

宮の後遺跡

所 在 地 東八代郡八代町永井小字宮の後1510番地他（位置図は「下丹崎遺跡」を参照）

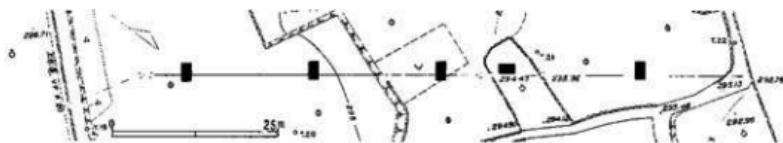
事業名 箕吹川農業水利事業

調査期間 昭和62年10月13日～62年10月19日

发掘担当者 森 和敏

面積 279 m²

下長崎遺跡の東約200mに所在する。発掘予定範囲の長さ100m、幅3mにトレンチを5ヶ所設定し試掘を行った。土師器片と須恵器片が数片出土しただけで、遺構は検出できなかった。



宮の後遺跡トレンチ配置図

下原遺跡

所在地 東八代郡八代町岡小字下原871番地他（位置図は「下長崎遺跡」を参照）

事 業 名 箕吹川農業水利事業

調査期間 昭和62年10月19日

發揮相當者 森 和敏

面積 260 m²

宮の後遺跡の東南約200mに所在する。3ヶ所のトレンチで試掘を行ったところ、20cmの表土下は砂疊層が数メートル続き、遺構も遺物も検出できなかった。



下原遺跡トレンチ配置図

両ノ木神社遺跡

所在地 東八代郡一宮町末木小字両ノ木
事業名 笛吹川農業水利事業
調査期間 昭和62年11月5日～11月14日
発掘担当者 小野 正文
面積 50m²

両ノ木神社遺跡はかつて山梨県教育委員会によって調査されている。このときは両ノ木神社の東側の現在の大型農道に伴う発掘調査であった。平安時代の住居址が5軒検出されている（『甲斐国国分寺周辺聚落址の調査（予報）』1972）。

今回の調査は両ノ木神社の境内地の現在運動場になっている部分の北側の調査である。調査の結果、幅約12m・深さ約1.6mの大溝を検出した。溝の東側は急な落ち込みとなり、西側はテラス状に段がつき緩やかな傾斜となっている。この溝の旧地表面にあがった部分に幅約1mの小さな溝がみられた。これより西は攢乱が著しく疊層となっている。

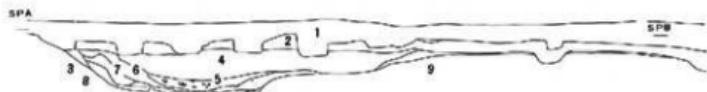
遺物はこの大溝から出土しているが、特にテラス部分にかたまって検出された。復元できたものは長頸壺3点、壺1点の他に、大溝の中から平瓦1点がある。また土師器片が多数あるが、復元し得なかった。

さてここで問題となるのが、遺物の時期と大溝の性格である。土師器から年代的にはほぼ10世紀代に置かれる。またこの大溝の性格であるが、方向的にはほぼ南北に走るらしい。川のような流路の形跡が認められることから、何等かの区画をする溝とおもわれる。とすれば、この「両ノ木」「龍ノ木」の地名が何かを暗示すると思われる。また勝沼バイパスの調査でこの付近より、「東大」の墨書き土器の出土もあり、今後の検討課題である。



遺跡位置図

(1/25,000)



両ノ木神社遺跡南北溝

遺跡調査発表会概要

山梨県内の遺跡発掘件数は、昭和62年度で60件に近い数が見られ、年々増加の傾向を示している。本埋蔵文化財センターはそれらの内容をいち早く一般県民に周知するために、「遺跡調査発表会」を山梨県考古学協会と共に開催で年2回実施している。本年度は上半期の報告会を昨年10月3日に、下半期の報告会を本年3月12日に行った。

昭和62年度上半期遺跡調査発表会

1. 宮の前遺跡 南都留郡西桂町所在

縄文時代中期後半の住居址5軒と配石遺構1基が検出された。

2. 上手沢遺跡 荏原市穂坂町所在

縄文時代の住居址9軒、配石遺構1基、土壙176基、弥生時代前期の住居址1軒、平安時代の住居址5軒が検出された。

3. 稲荷塚古墳 東八代郡中道町所在

後期古墳。石室内から土師器、須恵器、直刀、刀子、鉄鎌、鎧の小札、馬具、金環、玉、水晶製切子玉、銅鏡が出土している。

4. 天狗沢窯跡 中巨摩郡敷島町所在

7世紀後半の窯跡が2基検出されている。窯内部から瓦、須恵器などが出土した。

5. 別当十三塚遺跡 北巨摩郡長坂町所在

中世の塚が10基発見されている。

昭和62年度下半期遺跡調査発表会

1. 花鳥山遺跡 東八代郡八代町・御坂町所在

縄文時代前期の住居址23軒、土壙34基が検出されている。

2. 生産遺跡分布調査 東八代郡塊川村所在

牛居沢遺跡で須恵器の窯跡3基が、下向遺跡から近世の瓦窯址が発見されている。

3. 上土器遺跡 甲府市所在

甲斐国分寺に瓦を供給したと考えられる瓦窯跡が検出されている。

4. 竹原遺跡 北巨摩郡小瀬沢町所在

平安時代の住居址3軒、鍛冶工房址1基、鍛冶炉址1基が検出されている。

下半期報告会においては、遺跡報告に加えて「本年度県内埋蔵文化財の調査と保護」についての発表が、県教育庁文化課担当者から行われている。

昭和62年度県内埋蔵文化財発掘調査一覧表

(「発掘届」による)

遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	調査期間	時代	面積
1 上手沢遺跡	蓮崎市龍町大字宮久保5913-1	垂崎調査団	残土埋立	620420~620720	繩文	4,000m ²
2 板下遺跡	北巨摩郡白州町白須字坂下4288地	白州町教委	県宮園場整備事業	620501~620731	中世・近世	4,000m ²
3 西川遺跡	北巨摩郡玉町六平2670地	須玉町教委	県宮園場整備事業	620515~620930	繩文・平安・中世	17,600m ²
4 西原遺跡	北巨摩郡高根町山西割字西原	高根町教委	県宮園場整備事業	620515~630331	繩文・平安	10,000m ²
5 甲斐国分尼寺跡	東八代郡甲斐市後地642-1	一宮町教委	電気工事	620610~620630	奈良・平安	2m ²
6 天狗沢窯跡	中巨摩郡敷島町大物尺北1292地	敷島町教委	学術調査	620520~620620	古墳・奈良	891m ²
7 丘の公園地内遺跡	北巨摩郡高根町清里	山梨県教委	ゴルフ場造成	620518~621130	旧・绳・中・近	14,000m ²
8 西川遺跡	北巨摩郡玉町穴平	山梨県教委	道路建設	620511~620731	繩文・平安・中世	1,000m ²
9 別当十三塚遺跡	北巨摩郡長坂町大八田2727地	長坂町教委	県宮園場整備事業	620511~630331	中世	1,700m ²
10 深草遺跡	北巨摩郡長坂町大八田2427地	長坂町教委	県宮園場整備事業	620511~630331	平安	2,500m ²
11 米の原遺跡	塙市中萩原字小林3664-1	塙山市教委	ゴルフ場造成	620601~620731	弥生	320m ²
12 前田遺跡	垂崎市中田町中条前田56地	垂崎市教委	県宮園場整備事業	620530~630331	平安	4,000m ²
13 休場遺跡	南都留郡西桂町下着地2056地	西桂町教委	河川改修	620601~620715	旧・繩文・弥生	2,256m ²
14 黒川金山遺跡	塙市上萩原分区4783-2	田村善次郎	学術研究	620723~620825	中世	80m ²
15 村添遺跡	甲府市大津町字村添	甲府市教委	工業団地造成	620701~620708	平安・中世	50m ²
16 鷲跡使川第二特撰頭	垂崎市竜崎町下条削字西原	垂崎市教委	学術研究	620301~630331	中世	250m ²
17 稲荷塚古墳	東八代郡中道町下曾根字東山	山梨県教委	遺跡整備	620720~620930	古墳	2,000m ²
18 池之元遺跡	富士吉田市新倉字池之元2009-1他	富士吉田市教委	学術調査	620801~621001	繩文・弥生	218m ²
19 二又遺跡	甲府市住吉四丁目	甲府市教委	区画整理	620803~620820	弥・古・奈・平	100m ²

遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	調査期間	時代	面積
20 北原遺跡	北巨摩郡明野村浅尾新田北原	明野村教委	県営圃場整備事業	620601～620601	縄文	3,000m ²
21 宮前遺跡	柄都留郡西挂町下暮地宮下	西桂町教委	工場建設	620709～621005	縄文・赤土・中世	2,502m ²
22 一条氏館跡	西八代郡三珠町上野3172	三珠町教委	資料館建設	620812～630831	縄文	506m ²
23 方城第一遺跡	北巨摩郡大泉町合戸3254他	大景村教委	県営圃場整備事業	620803～620930	縄文	5,000m ²
24 四石田遺跡	東八代郡境川村小黒坂1640-1他	境川村教委	保育所建設	620804～620811	縄文	3,141m ²
25 両山遺跡	北部留郡上野原町上野原字側山	調査会道	路建設	620706～630331	縄文	3,100m ²
26 川合遺跡	北部留郡上野原町上野原字カネ	調査会道	路建設	620706～630331	縄文	964m ²
27 小幡子遺跡	東八代郡八代町永井小字砂田	八代町教委	宅地造成	620910～620930	縄文・古・平	32,797m ²
28 銅劍地川井相御遺跡	中巨摩郡白根町有野4368他	白根町教委	学術研究	621001～630331	中世	340m ²
29 蓼波寺廐寺跡	中巨摩郡蓼波町吉沢羅漢岳	敷島町教委	学術研究	620916～620918	中世	50m ²
30 花鳥山遺跡	東八代郡八代町竹居小字花鳥他	山梨県教委	農業閲覧	620928～630331	縄文	1,060m ²
31 西ノ木神社遺跡	東八代郡未木字龍ノ木	山梨県教委	農業閲覧	620928～630331	奈良・平安	300m ²
32 下原遺跡	東八代郡八代町鰐字下原	山梨県教委	農業閲覧	620928～630331	奈良・平安	390m ²
33 下長崎遺跡	東八代郡八代町永井字下長崎	山梨県教委	農業閲覧	620928～630331	古墳・奈良・平安	72m ²
34 宮の後遺跡	東八代郡八代町永井字宮の後	山梨県教委	農業閲覧	620928～630331	奈良・平安	470m ²
35 馬見塚遺跡	東八代郡八代町南244他	八代町教委	道路建設	321001～621214	縄文・古・奈良	500m ²
36 土器遺跡	甲府市桜井町上土器254地	甲府市史跡監委	学術研究	621020～630228	奈良	100m ²
37 川田館跡	甲府市川田町380・381他	甲府市史跡監委	学術研究	621020～630228	中世	60m ²
38 横堀遺跡	東八代郡御坂町上馬駒字横堀	山梨県教委	道路建設	621012～630331	縄文・平安	4,000m ²
39 石牆	北巨摩郡明野村浅尾新田1560地	明野村教委	県営圃場整備事業	621019～621114	縄文	30,000m ²
40 北原遺跡	北巨摩郡明野村浅尾新田北原	明野村教委	県営圃場整備事業	621026～621121	縄文・平安	24,000m ²

遺跡名	所在地	調査主体者	調査目的	調査期間	時代	面積
41 米倉山地城遺跡	東八代郡中道町下向山3733他	中道町教委	開発事業	621101~640331	縄文・弥生・古墳	1,500,000m ²
42 三飼下向窯跡	東八代郡境川村三野子下向849	山梨県教委	学術研究	621104~621226	古墳	30m ²
43 子の神神社窯跡	東八代郡境川村大窓子の神神社	山梨県教委	学術研究	621104~621226	古墳・奈良・平安	30m ²
44 温湯窯跡	東八代郡境川村大窓子延702・1	山梨県教委	学術研究	621104~621226	平安	30m ²
45 室屋窯跡	東八代郡境川村藤佐字室屋2472	山梨県教委	学術研究	621104~621226	奈良・平安	30m ²
46 牛居沢窯跡	東八代郡境川村藤佐字切付49	山梨県教委	学術研究	621104~621226	古墳	30m ²
47 上ノ木遺跡	甲府市住吉五丁目字上ノ木	甲府市教委	区画整理	621028~621114	古墳・奈良・平安	50m ²
48 宮田遺跡	甲府市住吉五丁目字宮田	甲府市教委	区画整理	621028~621114	古墳・奈良・平安	50m ²
49 笹尾塙跡	北巨摩郡小淵天町下笠尾字耕地久保	小淵沢町教委	林業閑遠	621020~621022	中世	48m ²
50 住吉遺跡	中巨摩郡甲西町大字古市場字住吉	甲西町教委	河川改修	621030~621031	奈・古・奈・平・中	27m ²
51 横堀遺跡	東八代郡御坂町上黒崎横堀	御坂町教委	道路建設	621125~630331	繩文・平安	2,000m ²
52 石橋条里遺跡	東八代郡境川村石橋942地	境川村教委	工場建設	630108~630120	平安	33,000m ²
53 錦馬羅小路A遺跡	甲府市竹原寺町鷲巣1435-1	甲府市教委	区画整理	630118~630331	中世	50m ²
54 日影遺跡	甲府市古府中町字日影3168	甲府市教委	区画整理	630118~630331	中世	50m ²
55 史跡甲斐国分寺跡	東八代郡一宮町国分127	一宮町教委	学術研究	620803~630331	奈良	250m ²
56 伝嗣院原遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原195	櫛形町教委	道路建設	630208~630229	繩文	500m ²
57 権現堂遺跡	南巨摩郡櫛形町新米字南山	増穂町教委	学術研究	630304~630330	平安~中世	263m ²
58 立石南遺跡	東八代郡境川村小黒坂481地	境川村教委	宅地造成	630226~630229	古墳	1,630m ²
59 村の内遺跡	北巨摩郡明野村上手4339他	明野村教委	道路建設	630217~630220	繩文・平安	300m ²
60 上野原遺跡	北都留郡上野原町上野原3493	上野原町教委	学校建設	630320~630331	繩文	625m ²

1988年3月25日 印刷
1988年3月31日 発行

年報 4

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
印刷所 株式会社 峡南堂印刷所

